

猛暑吹き飛ばす笑顔と熱気 大賑わいの第26回南東北病院まつり

総合南東北病院の第26回病院まつりは、7月30日(日)午前10時から郡山市八山田の同病院立体駐車場2階で開かれ、真夏日に近い暑さの中、2千人を超す市民で賑わいました。



子どもを喜び、仮面ライダースhow

開会式で渡邊一夫理事長がいさつしたのに続き、青森から首都圏まで県内外1都4県の南東北グループ病院・施設で働く職員たちによる今年で8回目の「よさこいソーラン大競演会」がスタート。19チーム、約450人が参加、テンポの速い、迫力ある曲に合わせて全身汗まみれになって若さあふれる演舞を披露し、詰めかけた市民たちから盛んな拍手を浴びました。午後からは仮面ライダーエグゼイドショーやバルーンアート教室、ニードルお笑いライブ、クラウンリキパフォーマンズシヨウなどの出し物が次々に



ファンサービスする福島UFCの選手たち

ステージで繰り広げられました。テレビなどでおなじみの仮面ライダーが登場すると子どもたちが大歓声。伊達市・霊山太鼓の迫力ある和太鼓の演奏には大人が盛んな拍手を送っていました。また今年、J3リーグで活躍中の福島ユナイテッドFCの川上竜選手と三橋秀平選手が訪れ「じゃんけん大会」に参加しファンサービス。じゃんけんに勝った人にはグッズをプレゼント、一緒に写真を撮ったり、サインに応じたりして大喜びさせました。

会場には健康相談コーナーはじめ職員やボランティアが運営する焼きソバ、氷水などの模擬店、塗り絵、ゲームコーナーなどが設けられ親子連れなどで大賑わい。流れる汗をぬぐいながら夏まつりを楽しんでいました。

最近よく聞く言葉

テレビなどで「アイ・ヴィール」という言葉をよく耳にします。医療に関心ない方はあまり馴染みないかもしれませんが、IVRはインターベンショナル・ラジオロジー(Interventional Radiology)の略。日本語訳では「放射線診断技術の治療的応用」「画像診断下治療」という言葉が用いられています。X線透視像や超音波像、CT像、MRI画像などを見ながら画像診断。カテーテルと呼ばれる細い管、または針を用いて外科

的手術なしで、できる限り体に傷を残さずに病気を治療する画期的な方法で「血管内治療」「カテーテル治療」「低侵襲治療」などと呼ばれています。

IVR (アイファイアール)

体内の状態をリアルタイムに観察しながらカテーテルなどを血管や胆管・消化管などに進め、詰まった血管や胆管を拡げたり、出血した血管を詰めて止血したり、がんを死滅させるなど様々な病変部の治療を行います。全身麻酔が必要な外科的手術に対し、局所麻酔で済むため体に与える負担が少なく、病気の部分だ

けを正確に治療でき、入院期間も短縮できるなど優れた特長があります。また緊急対応も可能なため高齢者や状態の悪い進行がんを含めたがんの治療にも広く応用され、大出血からの救命や血管などの閉塞、動脈瘤に対する治療にも有効な治療法と言われます。

治療は、腫瘍や血管病変を中心に全身の幅広い疾患に対し「刺す、入れる、拡げる、詰める、取る、出す」の手法が用いられます。低侵襲性治療のIVRにより患者さんの早期社会復帰が図られるほか、医療経済・社会的な負担も軽減されると期待されています。

国際病院 推奨、厚労大臣表彰など収録 29年度版南東北グループ年報発刊

総合南東北病院を中心とする南東北グループの「平成29年度版南東北グループ年報」写真Ⅱが出来上がりました。

東日本大震災から6年が過ぎ、世界的な医療を視野に積極的な活動を展開する当グループの動きや各種データを収録しています。主な活動では、寺西院長が郡山医師会の副会長に就任、平成28年度救

急医療功労者医療機関として厚労大臣表彰を受賞(表彰式は9月)、治験実施中のBNCT研究センターに国内外から視察が相次いでいる、当院が海外に勧める「ジャパン・インターナショナル・ホスピタルズ(日本国際病院)」の推奨、3月に完成した南東北子ども学園などを取り上げています。このほか最多件数を更新した手術件数、学会発



表・講演会各種講師活動、教育研修活動、看護研究発表、救急救命士の気管挿管実習受け入れ、医学生の実習・見学受け入れデータなども収められています。